

2011年5月 日

今村・前田両先生出演の能舞台 ご紹介

青雲塾担当 松井繁幸 (第23期)

昨年12月の青雲塾で、「能を楽しむ—観賞と体験—」をテーマに開催しました。そのときに講師をお願いした観世流シテ方能楽師 今村一夫・前田和子 両先生が出演される公演がありますので次のとおり、ご案内します。

今村先生は、現在、福岡を中心に活動されています。今回は大阪でシテを務める今村先生の舞台を楽しめるチャンスです。前田先生も仕舞を演じられます。青雲塾のご縁をきっかけに、能を楽しむ輪が広がるといいですね。そんな思いでご案内をお送りします。もし、会場で私の姿を見かけたら、声をかけていただければ嬉しいです。

1. 公演名 山本能楽堂定期能「5月29日のたにまち能」

2. 演目

★能 屋島 今村一夫

*旅の僧が源平合戦を物語る義経の亡霊に出会う

★狂言 二九十八 善竹隆平

★仕舞 ^{ひばりやま}雲雀山 前田和子 他

*中将姫伝説に材をとる

★能 杜若・恋之舞 松浦信一郎

詳細は、別紙 ちらしをご覧ください。

3. 日時 5月29日(日) 午後1時開演(4時30分頃終了)

4. 入場券 5,500円

5. 場所 山本能楽堂 <http://www.noh-theater.com/>

大阪府中央区徳井町 1-3-6 電話 06-6943-9454

(梅田から) 地下鉄谷町線「東梅田」駅より「谷町4丁目」駅下車、
(4)番出口より徒歩約2分

(なんばから) 地下鉄御堂筋線「なんば」駅より「本町」駅で乗り換え、
地下鉄中央線「谷町4丁目」駅下車、(4)番出口より徒歩約2分

6. 当日の連絡先：松井の携帯電話 090-5046-4075

(会場の住所、地図見取り図)



● 狂言 二十九十八 善竹 隆平

美しく咲き乱れる杜若に見とれていると
女が現れ、在原業平ゆかりの由緒を語る。

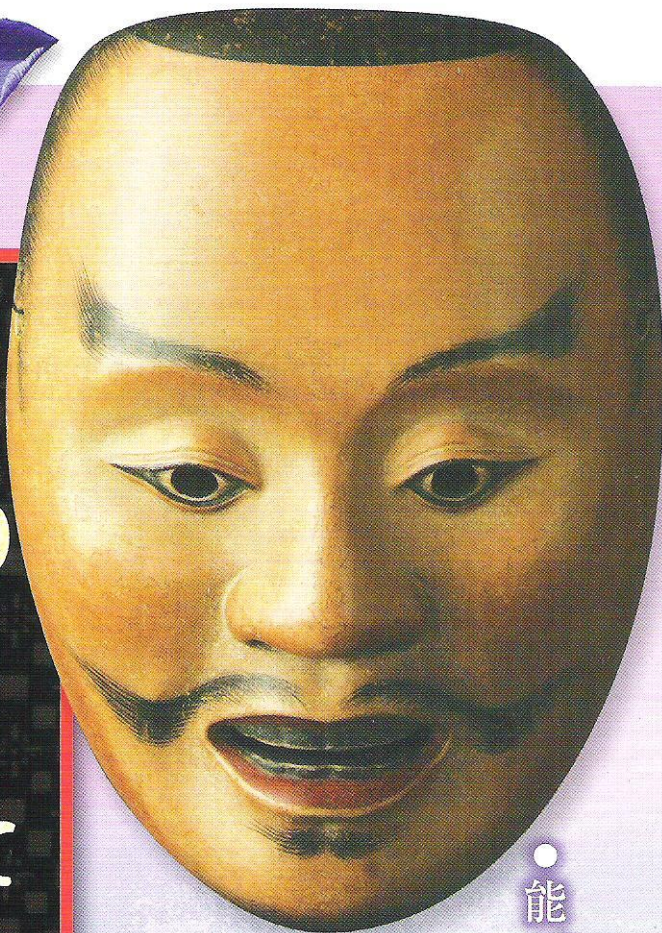
● 能 杜若恋之舞 松浦信一郎

かきつばた

くいのまひ

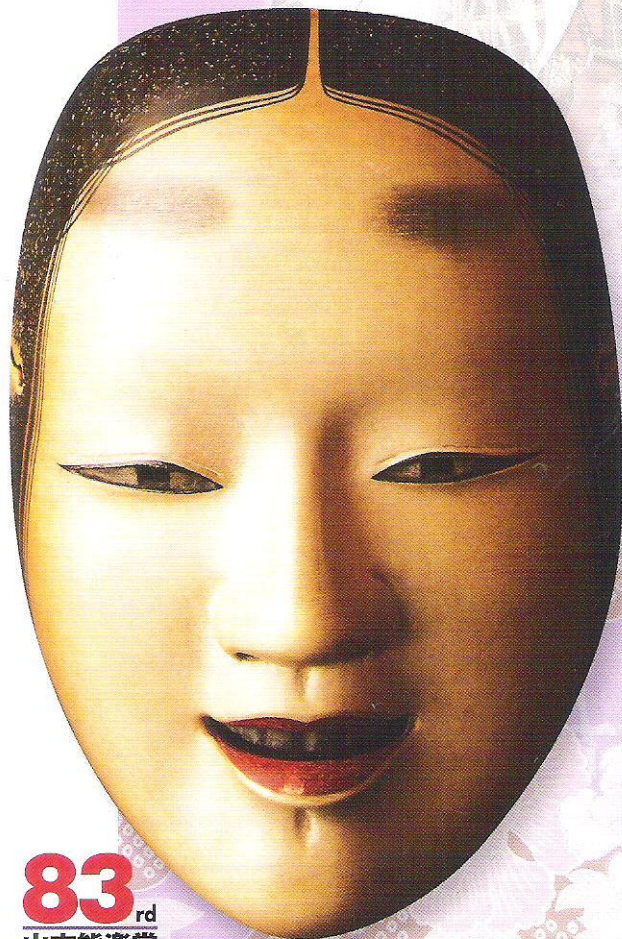
平成23年5月29日(日) 1時開演

5月29日のたにまち能



● 能 屋島 今村 一夫

旅の僧侶が出会った老人は、
源平合戦を知る義経の霊であった。



83rd
山本能楽堂
Since 1923

国登録有形文化財
山本能楽堂
公式ホームページ
<http://www.noh-theater.com/>

■主催/公益財団法人 山本能楽堂

■後援/大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・財団法人 大阪21世紀協会

入場券 ●一般券 5,500円 ●学生券 3,000円 繰り割引券(3回分) ●一般券 15,000円 電子チケットのみ pia.jp/t (Pコード 409-276) 0570-02-9999
お問い合わせ 山本能楽堂 / Tel. 06-6943-9454 Fax. 06-6942-5744 公式ホームページ <http://noh-theater.com/> e-mail info@noh-theater.com

※山本能楽堂は平成18年12月に国登録文化財に指定されました。

午後1時始

能「屋島」

前シテ(漁翁) 今村 一夫
後シテ(源義経ノ霊) 林本 大
前ツレ(漁夫) 広谷 和夫
ワキ(旅ノ僧) 喜多 雅人
ワキツレ(従僧) 善竹 隆司
アイ(屋島ノ浦人) 善竹 隆司

笛 貞光 義明
小鼓 清水 皓祐
大鼓 辻 雅之

後見 山本 勝一
松浦信一郎

地謡 波多野 晋
山本 博通
河村 栄重
森本 哲郎
前田 和子
吉山 有
浦 泰助
朝原 広基



今村 一夫

●あらすじ

春の夕暮れ、屋島の浦(現在の香川県高松市)を訪ねた旅の僧侶(ワキ)は、老人(前シテ)と若者(ツレ)の二人の漁師に出会い、その塩屋に泊めてもらう。老人は僧侶に求められ、源平の屋島の合戦の話を語る。一際目立った義経の勇姿、悪七兵衛景清と三保谷四郎の鏝引きの力競べ、主人をかばい敵の矢を受けて死んだ佐藤兼信と菊王のふるまいなどを語り終えた老人は、自分が義経であることをほめかして姿を消す。(中入)

僧侶は塩屋の本当の持ち主(アイ)から老人は実は幽霊であろうと言われる。後半過ぎには義経の霊(後シテ)が昔の姿で現れ、屋島の合戦の様子を物語る。義経は戦いの最中、あやまって弓を海中に取り落としたが、危険を冒して取り返したという。さらに修羅道の刻限となり、義経は能登守教経を相手に激戦の様子を見せるが、夜明けと共に消え失せる。

義経が役として登場する能は数多くありますが、シテとなっているのはこの「屋島」一曲だけです。世阿弥が「道盛(=通盛)、忠度、よし常(=屋島)、三番、修羅がかりにはよき能也」と語ったことが聞書「申楽談儀」に見え、自信作だったようです。

狂言「二九十八」

シテ(何某) 善竹 隆平
アド(御霊夢妻) 上吉川 徹

後見 上西 良介

●あらすじ

ある男がふさわしい妻を授かりたいと清水寺の観世音の堂に籠ると、西門に立つ女を妻にせよとの霊夢を受けたので、さっそく行ってみると女性が立っています。男は和歌で「春日なる里とは聞けど空町の角よりしてはいくつめの家」と家を問うと、女性は「にく」と言って姿を消します。「にく」とは九九の「二九」、つまり18軒目だろうと、男はその家を訪ねますが……。

仕舞

「養老」 河村 栄重 「雲雀山」 前田 和子 「放下僧」 山本 順之 「邯鄲」 波多野 晋

地謡 山本 章弘 山本 博通 今村 宮子 吉山 有

休憩10分

能「杜若恋之舞」

シテ(杜若ノ精) 松浦信一郎
ワキ(旅ノ僧) 福王 和幸

後見 波多野 晋
今村 一夫

地謡 山本 順之
山本 章弘
今村 宮子
森本 哲郎
林本 大
高橋 京子
山下 麻乃
山本 麗晃



松浦信一郎

●あらすじ

旅の僧侶(ワキ)が関東地方へ向かう途中、三河国八橋(現在の愛知県知立市)で沢辺に美しく咲き乱れる杜若の花に見とれていると、若い女(シテ)が現れ、かつて在原業平が東下りの途中、この地で杜若にちなんで和歌を詠んだ話を語り、自分の家に案内する。女は業平の冠と、業平と禁忌の恋愛をした二条後の唐衣を着た姿で僧侶の前に再び現れ、杜若の精と名のり、業平は歌舞の菩薩の化現であると述べる。そして舞を舞い、草木成仏の仏法によって自分も成仏すると行って姿を消したのだった。

中世には『伊勢物語』の杜若を二条後の形見とし、三河は業平と関わった三人の女性、八橋もまた八人の女性の意味であるという理解がありました。また業平が実は陰陽(男女交合)の神であって衆生を救済するためにこの世に現れたという理解もあり、そのような『伊勢物語』理解の元に能「杜若」は作られました。

「恋之舞」の小書がつくと詞章の一部が省かれることもあります。また、舞の型も替わり、橋掛かりで水鏡を見込む型が入ります。

午後4時30分頃終了

(公財)山本能楽堂 賛助会員募集のお知らせ

山本能楽堂は大阪市中央区徳井町(谷町4丁目)に、山本家先代 山本 博之が、昭和2年に建設しました。その後戦火に遭い、一度焼失しましたが、昭和25年に再建し現在に至っております。そしてこの度、更なる能楽の普及・発展をめざし、公益財団法人 山本能楽堂を発足致しました。それに伴い、さらに広く皆様方に能楽の楽しさに触れ魅力を感じて頂くため、平成十九年度より賛助会員を募集させて頂く事になりました。

ご入会頂きますと「たにまちな能(山本定期能)」のご招待、各種公演の御案内、山本能楽堂のご使用料金の割引等の特典を受けて頂く事ができます。お一人でも多くの方にご支援頂き、能楽の普及にお力添えを賜りますれば、何より有難く、御賛同賜ります様よろしくお願ひ申し上げます。

	個人会員 A	個人会員 B	法人会員
年会費1口	10,000円	30,000円	100,000円
ご招待(一口あたり)	たにまちな能招待券2枚(通常11,000円)	たにまちな能招待券6枚(通常33,000円)	たにまちな能招待券などもしくは舞台使用料を会費分償引
その他の特典	●各種公演の御案内を無料送付 ●会員様のみのイベントに参加		

- 招待券はご本人様以外でもご利用いただけます。
- (社)企業メセナ協議会を通して頂く、税制上の優遇があります。詳細は能楽堂までお問い合わせ下さい。

ご入会頂けます方は、下記お問い合わせ先までおたずね下さいませ。後日、公益財団法人 山本能楽堂より書類をお送りさせていただきます。会員になられる前に、能楽堂の見学をご希望の方はご連絡下さい。

- 通常「たにまちな能」は年間6回の公演で、1回につき2種類の能と狂言の構成になっております(1回は素謡会)1回券 5,500円
- 招待券は1月から12月までの公演でお使いできます。
- 素謡会とは…「能」の要素には謡(歌)と舞があります。お離子や舞、動き、装束などを除いた謡の部分の聞いていただくもので、謡の美しさや妙味を楽しんでいただけます。

■主催/公益財団法人 **山本能楽堂**

■後援/大阪府・大阪市・大阪府教育委員会・大阪市教育委員会・財団法人 大阪21世紀協会

山本能楽堂 / Tel. 06-6943-9454
Fax. 06-6942-5744
e-mail info@noh-theater.com

山本能楽堂のホームページ / <http://www.noh-theater.com/>



地下鉄谷町4丁目④番出口より、北に一筋目の角を左へ100m、南側(徒歩2分)

次回のたにまちな能

平成23年7月3日(日)13時開演

素謡会

※許可なき撮影、録音は著作権、肖像権などに抵触いたしますので、ご遠慮下さいませようお願い申し上げます。